‘To acknowledge the duty that accompanies every right”
Affiliated with the International Association of Y’s Men’s Clubs

THE OSAKA CENTENNIAL

C/O OSAKA YMCA
1-5-6 TOSABORI、NISHIKU、
OSAKA、JAPAN

2019年9月 No.448
Chartered July 20, 1982

主　題　Y's THEME (2016～2017)	
センテニアルクラブ会長	：『40周年に向けた一歩』
国際会長	：『より良い明日のために今日を築く』
アジア太平洋地域会長	：『アクション！』
西日本区理事	：『風となれ、ひかりとなれ』
中西部部長	：『為せば成る』

クラブ役員　Officers		
会　長	：	中村　茂高
副会長	：	三浦　直之
書　記	：	大村　　肇
ドライバー	：	大村　　肇
会　計	：	岡本　剛介
メネット会長	：	中村　幸枝
YMCA 連絡職員	：	船戸　輝久

Biblical Message of September

神の恵みによって　今日の私があるのです。

（コリントの信徒への手紙Ⅰ15章10節）

パラリンピック

山中　ちあき

パラリンピックはイギリスの病院で下半身麻痺した兵士の治療のためスポーツを取り入れ、スポーツ大会が開かれたのが初めと言われています。全国車椅子マラソン開会式が京都プリンスホテルで開会され、秀メンと出席した時、一人の選手と出逢いました。『私は半身麻痺していて右足も半分切ってしまいました。右足は２度と膝から下は生えて来ません。失ったものを数えるより、私は元々あった足をより強くし、それを補う心を家族やみなさんからの支えで生きる力を漲らせようと頑張って来ました』。その横で中学生の息子さん二人が、ロ々に練習していた川の土手で弛まぬ努力をする父親の姿を誇らしく話してくれました。ふと気がつくと高円妃久子様が横にお見えになり、少年たちにも何かスポーツをしているの、選手の奥さんにも言葉をかけていらしゃりながら、私たちの写真の輪にも笑顔で入ってくださいました。妃殿下は開会の挨拶が終われば御帰りになったと思っていましたが、その後全選手のテーブルを回り話しかけられ、来年のパラリンピックでもまたお目にかかりたいですね、と手を振って会場を後にされました。会場はスポーツをする雰囲気で、明るく、爽やかな笑顔が溢れ、明日にチャレンジする活気を感じました。
ちなみに、英国ではハンディキャップがあり、リハビリに励んでいる人を「チャレンジャー」と呼んでいます。

September Club Meeting

『Y's Menettes』

9月第１例会

日　時：2019年9月18日（水）18:30～20:30
場　所：ホテルグランヴィア大阪
司　会：坂本 千春　君

1.	開会	中村 幸枝 メネット会長
2.	ワイズソング	一同
3.	聖句朗読	松浦　和子メネット
4.	ゲスト・ビジター紹介	中村 幸枝メネット会長
5.	強調月間	中村 幸枝メネット会長
6.	晩餐	一同
7.	卓話「西淀川子どもセンターの現状と課題」	同センター西川 奈央人理事長
8.	連絡・報告・ニュース	各メンバーから
9.	お誕生祝い/ニコニコ献金	一同
10.	閉会	中村 幸枝メネット会長

＊ニコニコ献金は、西淀川子どもセンターの寄付になります。

お誕生日：８月＝山田、坂本哲、芝田、谷川の各メン
　　９月＝大村メン

9月第２例会

日　時：2019年９月11日(水)18:30～20:30
場　所：土佐堀YMCA会館４階
内　容：40周年事業ほか

【クラブ統計　Statistics 】

８月	種　　別	第１例会（中止）	第２例会	BF ポイント		ニコニコ献金	
在籍会員　17名	メ　　ン	０名	５名	８月	0g	８月	０円
例会出席　11名	メネット	０名	０名	現　　金	０円		
うちメーキャップ	ビジター	０名	０名	累　　計			
６名	ゲ ス ト	０名	０名	切　　手	204g	累　計：	11，300円
出 席 率　64.7％	合　　計	０名	５名	現　　金	０円		

【今月の聖句】

パウロは、イエスの「復活」を語る文脈で、この言葉を述べています。彼は、「復活」を　神が、人の目に死んだと映るものに生命を与え、愛を献げあうものとされることを語っています。聖書の語る「恵み」は、受けることだけで完結するものではありません。恵みを受けた人が、それを引き継ぎ、さらに隣人へとつなげる担い手となり、豊かな賜物を受け渡していくものです。

（聖句選/コメント：松浦　和子）

８月第１例会

台風１０号接近のため、中止

８月第２例会報告

と　き：８月 28 日（水）18:30～29:30
ところ：大阪 YMCA 会館４F
出席者：石津、大村、芝田、中村茂、三浦

〈今後の例会ほか行事予定〉

＊香港 40 周年　（谷川、大村、三浦、坂本夫妻、中村茂、何＝仕事で滞在中に参加）
＊9 月メネット例会　卓話「西淀川子どもセンターの現状と課題」
＊９月第２例会（9/11）は、40 周年記念事業検討会
＊10 月「保険のあれこれ」ソニー保険・武田善博さん
＊11 月「令和と天皇御即位式」京都宮廷文化研究所・吉野健一さん（謝礼なし、交通費、手土産）

〈ワイズ活動〉

＊チャリティー・ラン（9/23・鶴見緑地）三浦、芝田、大村、中村）
＊中西部部会 10/5（土）茨木スカイレストラン後日、案内

（第２例会議事録より抜粋）

大阪 YMCA のスタッフとの交流会、ハイポーズ！

大阪 YMCA スタッフとの交流会報告

８月 22 日、19 時から、中之島フェスティバルタワー１２階のフェスティバルキッチンで、YMCA 国際専門学校・表現コミュニケーション学科（6 名）と IHS インターナショナルハイスクール（6 名）のスタッフとの交流会を、当クラブ 11 名、総勢 23 名で開催しました。

お茶会やチャリティー・ランなどでお世話になっているものの、ゆっくり話し合う機会が少なく、１昨年に続く２回目。山中秀男メンが「YMCA と SDGs」として、米・ニューヨークのフロストバレーキャンプ場の試みを紹介するなどのアピールタイム＝写真＝もあり、有意義な交流会ができました。

YMCA ニュース

☆第 317 回早天祈祷会☆

日時：2019 年９月 20 日（金）７：30～８：30
証し：川岸　清さん（大阪 YMCA 役員）
場所：大阪 YMCA 会館　10 階チャペル

☆第 25 回大阪 YMCA・チャリティー・ラン 2019☆

YMCA インターナショナル・チャリティーランは障がいのある子どもたちを応援するイベントです。障がいのある人もない人も共に走り、支えあうことで障がいのある子どもたちが幸せに生きていくための理解と共感の浸透を広げることをミッションとし、全国で開催しています。

【開催日時】2019 年９月 23 日（祝・月）9:00～13:00
【場所】花博記念公園 鶴見緑地 特設コース
【主催】大阪 YMCA　ワイズメンズクラブ国際協会　西日本区 阪和部・中西部
https://www.osakaymca.or.jp/volunteer/events/OsakaYMCA-International-charityrun/2019/index.html

船戸 輝久

Going Global：世界ワイズ最近事情

谷川　　寛

最近の世界のワイズの動きを知る上で、前回触れた“YMI World 誌“は大変参考になります。今、世界の”Extension”活動が頭打ちなのは、ワイズの高齢化が日本だけの現象でなく、世界的な傾向であることも一因です。そんななかでユニークな現象が起こっています。この兆候は、２０年前、私が訪問した中東 Dubai で経験しました。イスラム国の同地でワイズが誕生したというニュースに不思議に感じ、訪問を考えました。ドバイは当時原油ブームで沸く中東の中で、この都市国家は人手不足が深刻で、大量の労働者をインドから受け入れていました。彼ら“出稼ぎインド人社会で誕生したワイズ・クラブ“でした。訪問は実現せず残念でした。　今年 4 月、アメリカ・ニューヨーク市の郊外 Jackson Heights で誕生したワイズは、全員バングラダシュからの移住者で構成された 15 名のクラブです。同じく 7/8 年前にニューヨーク Long Island にインド人移住者で成立ったクラブが誕生しています。今年 6 月にヴェトナム・ダナンに同国ではじめてワイズが誕生しました。Da Nang は昔ヴィエトナム戦争の時の激戦地です。今は観光リゾート地に変身。この地に誕生したワイズは同地に移住の韓国人地域社会で成り立っています。全員韓国人で、このクラブのスポンサーは、韓国の Chonbuk Region です。おそらく例会も韓国語でしょう。

このように世界各地で、その国の以前は地元の native な人々で成り立っていたクラブが衰退してゆく過程で、他所の国から移り住んだ新しいアイデンティティをもった人々で構成されたクラブが誕生しています。ワイズの新しい芽生えかもしれません。

Going Global: ハワイ Brother Club 最近事情

世界のワイズの活動を知る方法の一つに”YMI World”という雑誌があります。日本語版が、東西日本区の有志の翻訳で、年に３/4 回発行されています。今度発行される最新号で私の翻訳担当した２頁の中に偶々”USA: Book and Bread Sale in Hawaii”と題した”Nuuanu Y’s Men and Women’s Club”に関する記事がありました。この記事の翻訳を私がやることになったと、先日西日本区大会に参加した Maurice Shimonishi に伝えたところ、補足として写真・情報を送ってくれました。是非、記事の内容は今度発行される雑誌でお読みください。

近くの McKinley 高校のカフェテリアを借りて行う“シナモン入りパンと中古書籍の販売”は、彼らの年中行事で、資金集めの大きな事業です。毎年定期的に行うため、地元の人々は、よく知っており、あまり手間が掛かりません。古本の値段は買うお客が自分で決めます。この中古書籍の販売は、Nuuanu Club だけでなく、北米のワイズでは資金集めの事業として広がっています。売れ残った古本は、近所の図書館に寄付するそうです。CP Shimonishi は、当クラブでもやったらどうか？と言いますが、日本のワイズ事情はだいぶ異なりますので、成功するかどうか大いに疑問があります。ハワイでも収益性の観点から低位のようです。

マンダレー滞在記

中村　隆幸

マンダレーに来て３カ月以上が過ぎました。８月３日にはヒトセンターの５月期の日本語授業の修了式がありました。8 月は休みで９月９日から２学期目が始まります。

この３カ月間の出来事などをご報告します。

５月６日からは、私の旧友をたずねて Pindaya に行きました。車で約 6、7 時間かかります。この地域は標高 1,200 メートルなので、マンダレーに比べるとかなり涼しいです。また、有名な洞窟寺院があり奥行きが数キロメートルあり、数千体の仏像が祭られています。そしてトレッキング盛んで私の泊まっていたホテルにも、ヨーロッパの団体客がここを拠点にして、いろいろな地域をトレッキングしていました。

５月 13 日から授業が開始となった。そして今日は待望の雨が降り、少し涼しくなりました。

５月１２日　私の関心があるマンダレーの無料診療所一つであるミンデーチューピュー診療所に行く。患者たちは診療所の木の下に、腰を下ろして診察の順番を待っている。診療所は、僧院の中の建物を借りて行っている。僧院のトップである僧院長の善意で貸してくれているとのことである。建物の周囲は樹木が多くてけっこう涼しいが、雨の時は、建物が高床式になっているので、その下に入って待つそうである。

今日は、診療所の中心人物である Dr. Hein Htet 以外に２人のボランティア医師とマンダレー医科大学の学生が６人ほど見学に来ていた。彼らの中からこの無料医療奉仕活動に賛同して、参加してくれる人が出てくることを期待したい。診療が一段落した後で、なかのしまワイズメンズクラブの 1,000 ドルと、妻の知り合いの方から頂いた 500 ドルの寄付金を贈呈した。診療所側からは、感謝状の入った額をいただいた。

５月１３日　今日から授業が開始となった。私は Basic ２クラス、Intermediate1 クラスと N3 クラスを受け持つことになった。Basic２は 13 名、Intermediate１は７名、N3 クラスは５名である。生徒は、大学生や働いている人なので、全員が毎日出席することは、なかなか難しい。

５月１７日　もう一つの無料診療所ミェタッチューピュー診療所が、現在診療している場所を大家さんから明け渡してくれとのことで、移転することになった。そしてある僧院の好意で、僧院の敷地内でかなりの広さの土地を提供してもらうことになった、そしてその場所を見に行った。診療所を建設する場所は、広さは十分であるが、草ぼうぼうで小さな池のようなものもあり、整地をして建物を建てるとなると相当の日数がかかると思われた。しかし、ボランティアグループの人たちは、やっと自前の診療所を持つことができると、喜んで張り切っていた。Dr. Hein Htet は、将来は小さな病院も建てたいと言っていた。

　そのあと、一時的に診療所として使う地域のお寺を見に行く。信者が集まる場所に机などを置いて、床に敷いたシートに座って診療をするらしい。日本の感覚からすると、このよう場所が医療施設と使用されることには、なんとも言えない悲しい気持ちになるが、これがミャンマーの医療の現状である。

５月１８日　仮診療所に行く。仮診療所での診療の情報が十分でなかったのか、いつもの土曜日と違って患者の数が少ないように思われた。

６月１日　学生たちと小旅行をした。ゴッティ橋という鉄橋を渡り、またピンウーリンという町で一泊するという旅行。ゴッティ橋は、今から 100 年ほど前にイギリスによりつくられた、世界で２番目に高い鉄道橋という話だ。マンダレー管区とシャン州を結ぶ鉄橋で２つの地域の間には、昔に地震によってできた峡谷があり、その峡谷を渡らないと物流の行き来ができないために、マンダレーと北シャン州の州都であるラーショを結ぶ鉄道が建設されたそうだ。マンダレー駅から 4 時の列車に乗り、約 7 時間かかってゴッティ駅に着いた。そして 10 数分かかって橋を渡り、北シャン州側のナンペイ駅に着いた。30 分ほど待つと、ラーショから来た列車に乗り込んでピンウーリンという町に行く。ピンウーリンの町は、イギリスの植民地時代にイギリス人の避暑地の別荘が、たくさん造られた町で、夏でも非常に涼しく美しい街だ。

６月５日　前ワイズメン国際協会総書記の西村隆夫君が、マンダレーに来た。彼は今年の２月に総書記を退任したが、現在タイのチェンマイにある国際協会のサテライト本部で仕事をしている。私がマンダレーのヒトセンターで、日本語講師をしているとのことで、それを見学したいとのことであった。ちょうど YMCA 創設１７５年の記念式典が、マンダレーYMCA で開かれ、それにも出席してくれた。彼は私同様に、センテニアルワイズメンズクラブのチャーターメンバーで、長い間会っていなかったので非常になつかしく思った。

日本語会話カフェ

　日本人と会話をしたい、授業の会話でない会話をしたい、日本から帰国してから、あまり日本語を話す機会がないという人たちのために、昨年の５月から日本語会話カフェを始めている。ヒトセンターの日本人講師、またマンダレー外国語大学の日本語学科の、日本人のアシスタント講師などが中心になり、自由な会話、少しでも日本語を使う練習をするための会話クラブだ。週一回日曜日に開いている。多いときには１４、５人のミャンマーの若者が集まる。参加者全員が、誰かに聞いてみたいことや自分のやりたいことなどを紙に書き、それを箱に入れて各自がその紙を取り出し、それについて意見を述べ、参加者が質問をするという形式だ。十分に日本語で説明できない時は、ミャンマー語で話し、それをベテランの通訳がみんなに説明してくれるという形をしている。こういう方式なので、出席者全員が何かを日本語で話さないといけないわけだ。これからももっといいやり方を考えて、続けていきたいと思っている。